

八代市協働のまちづくり推進条例

この条例の特徴

- ・市民の皆さんのまちづくりへの参画に力点を置いた条例
- ・誰にでも分かりやすく、なじみやすい「です・ます」調の条例
- ・八代市の目指すまちづくりの姿を前文に設けた条例

協働の推進

- ・市民等と市は互いに情報を広く発信し、収集することに努めます。
- ・市政への市民参加の機会を設けるよう努めます。
- ・市民等と市は共に学び合い、人材の育成及び活用に努めます。

協働のルール

- ①市民等と市、お互いがまちづくりの主体
- ②市民等と市、お互いが対等なパートナー
- ③市民等と市、お互いがまちづくりに関する情報を共有します
- ④市は市民等の市民活動を尊重します

※市民等とは市内に居住する人、市内に通勤・通学する人、市内で地域活動・市民活動などさまざまな活動を行っている個人や団体(自治会、地域協議会、NPO、ボランティア団体など)をいいます。



市民等



市

市民等と市が話し合い、協力してまちづくりを進めます



◆市民の役割

- ・市民はまちづくりに参加、協力するよう努めます。
- ・市民は市民参加と協働にあたっては、積極的に提案行動するように心がけます。
- ・市民はまちづくりに関する情報に関心を持ち、積極的に情報を得よう努めます。
- ・市民は自分の住む地域に関心を持ち、連携・協力し、地域の活性化及び課題解決に向け自らの意志と判断で行動するよう努めます。

◆市の役割

- ・市は市民等が市政について考え、参加することができるよう、必要とする情報をわかりやすく提供します。
- ・市は市民等に市政についてわかりやすく説明し、市民等からの質問に対して誠意を持って対応します。
- ・市は市民等の意見を聞くため、市民参加の機会を設け、市政に反映するよう努めます。
- ・市は市民等に対し市民参加と協働に関する啓発に努めます。
- ・市は市職員に対して協働のまちづくりについての認識を深めるための研修等を行い、市職員自らも地域社会の一員として、積極的にまちづくりに参加するよう努めます。

Interview

八代市協働のまちづくり推進条例検討委員会委員に聞きました

条例はまちづくりを進める第一歩

私は八代市PTA連絡協議会の代表として参加しました。同時に松高自治協議会の事務局長でもあるので、保護者と協議会の2つの立場から子どもと保護者が参加しやすい活動などについて意見を出しました。

また、意見を出し合う中で、委員会の皆さんのまちづくりに対する熱い思いに刺激を受け、私も地域の皆さんと協力し、自分の地域をさらに良くしていきたいと思いました。

条例は市民が中心となって、誰にでも分かりやすい文章で作りました。今後はこの条例をたくさんの人に知ってもらい、若い世代の人たちとも一緒に地域を盛り上げていけたらうれしいです。松高自治協議会としても参加しやすい雰囲気づくりに努めていきたいです。

今田 史昭さん (古閑中町)

みんなのまち
共につくろう
やつしろ



東町川原地区の案内板(右)を設置した熊本高等専門学校八代キャンパスの学生と地域住民

特集

広げよう 協働の輪



本市では市民等と市との協働のまちづくりを推進しており、「八代市協働のまちづくり推進条例」を8月1日から施行します。一人一人が地域のためにできることを考えて、みんなで協働のまちづくりに取り組んでみませんか。

問合せ 市民活動政策課 ☎33-4482

◆協働のまちづくりとは

住み良いまちをつくるために、市民や自治会、地域協議会、市民活動団体と市などまちづくりに携わるさまざまな主体がそれぞれの特性を生かし、共通する目標に向かって対等な立場で知恵を出し合い協力していくことです。

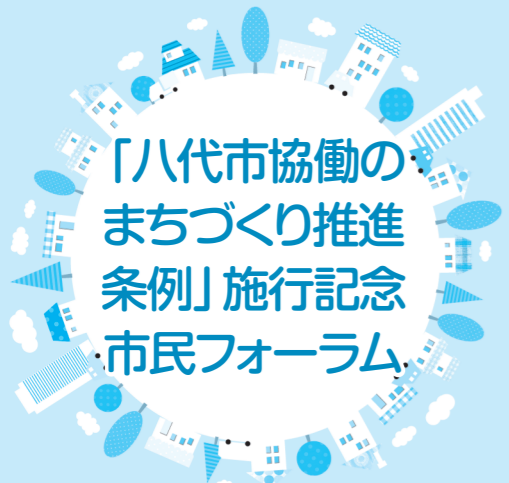
◆協働のまちづくり推進条例とは

この条例は、まちづくりのための市民等と市の役割を明らかにし、市民参加と協働を進めるための基本的な事項を定めています。そして、市民等と市が力を合わせて安らぎと活力ある地域社会を築いていくことを目的としています。

◆なぜ、条例が必要なのか

近年の少子化による人口減少、核家族化の進行による生活様式の多様化といった社会環境の変化は、まちづくりへの関心や地域の連帯感の希薄化を招き、地域コミュニティの果たす機能までも衰退させてつあります。そのため今後は、一人一人がまちづくり活動の主体としての役割を自覚し、地域や市政に関心をもち積極的に参画することが求められています。また、市も開かれた市政運営を行い、市民と連携・協力していくことが望まれています。

このように、まちづくりの主体となる市民等や市の役割、市民参加による協働の推進のための仕組みなどを市民の皆さんに知ってもらい、まちづくりに参加してもらうために「条例」として定めるものです。



「八代市協働のまちづくり推進条例」施行記念市民フォーラム

条例の施行を記念して、市民フォーラムを開催します。条例の詳しい内容について理解と関心を深め、協働のまちづくりを行っていく重要性について知り、一緒に取り組んでいきましょう。また、会場でも条例についてのパンフレットを配布します。

とき 8月31日(土) 午後1時30分～
(開場:午後1時)

ところ やつしろハーモニーホール
内容

- ①基調講演 熊本県立大学教授 澤田 道夫氏
演題「八代市協働のまちづくり推進条例」について
- ②地域協議会の取り組み発表(2地域)
- ③特別講演 フリーキャスター 堀尾 正明氏
演題「ご近所から、あなたの世界は変わります」



熊本県立大学教授
澤田 道夫 氏



フリーキャスター
堀尾 正明 氏

※条例の詳しい内容については、「八代市協働のまちづくり推進条例」パンフレットまたは市ホームページで確認できます。パンフレットは本庁仮設庁舎、各支所、各コミュニティセンターに設置しています。



皆さんが暮らす中で、困ったことやもつとこんな風になつたらいいなと思つたことはありますか。地域の課題を自分のこととして向き合い、解決のためにできることを考えましょう。「より良いまちにしたい」という思いを周りの人にも話してみることで思いが共有され、カタチになっていきます。

Step 1 地域の課題を見つけよう



協働のまちづくりを踏み出したいあなたに

定期的に活動内容を振り返ることでコミュニケーションと相互理解が深まります。その際に目的を達成できたか、活動に問題がなかったかという視点で評価し、必要に応じて見直しや今後の方向性も検討しましょう。

Step 3 活動を振り返ろう

各地域には地域の課題解決とまちづくりに取り組むために市内に21の地域協議会があります。一人では難しいことも市民同士で協力したり、ときには行政を巻き込んで行動することで解決できる場合があります。解決したい課題や協働の手法、協働を進めるためのルールなどをしっかりと話し合い、計画を立てて一緒に進めましょう。

Step 2 みんなで取り組もう

「八代市協働のまちづくり推進条例」は特別な規制やしほりではありません。まちづくり活動を進めやすく、参加する人がより参加しやすくし、協働のまちづくりが今よりもっと盛んになるための条例です。そうすることで、市民の皆さんと市による協働のまちづくりを更に発展させることが期待できます。

今後どのように変わるのか

振り返りした点を次の活動に生かしていくことでより良いまちづくりにつながります。結果としてその時は成果が出なくても、長期的には成果がでることもあります。長く続けていくことは大変ですが、できる範囲で楽しみながら行っていくことが大切です。

Step 4 続けてみよう

市民×市 八代の未来

まちづくりは行政だけではできません。現在、求められているのは地域の特性を生かしたまちづくりです。そのためには、地域の実情をよく知る市民の力が不可欠です。一人一人が「暮らしやすいまちにしたい」という思いを持って行動することで少しずつ変化していき、やがて市全体が変わります。まずは、広報やつしろや市ホームページを使ってまちづくりにとって必要となるさまざまな情報を収集し、まちづくりに関心を持つことから始めてみませんか。「誰かがやってくれる」ではなく、「自分でできることをできる範囲でしよう」という意識で協働のまちづくりに取り組み、みんなで「魅力あふれるやつしろ」にしましょう。



自主防災組織

太田郷校区では、地域住民らで意見を出し合い、災害時の対応をあらかじめ決めたタイムラインを作成し、活用しています。



コミュニティビジネス

坂本住民自治協議会では、坂本町の人口減少に歯止めをかけ、さらなる地域振興化を図るために「食処さかもと鮎やな」を開業しています。利益は全て地域に還元しています。



活動を始めて今年で16年目です。みんなで負担にならない程度に楽しみながら活動することが長く続いている秘訣です。今後も子どもたちが事故に遭わないように見守ってまいります。

植柳小学校SSP 代表 永松 文雄 さん



子どもの見守り活動

植柳校区では、地域全体で児童の下校時に横断歩道や見通しの悪い交差点、交通量が多い地点などに立ち、交通安全指導や不審者などの対策の見守りを毎日行っています。



清掃活動(八代海河川・浜辺の大そうじ大会)

次世代のためにがんばる会が主催者となり、八代海河川・浜辺の大そうじ大会を毎年開催しています。今年は高校生や市民団体、企業などから約500人が参加し、ごみ拾いを行いました。



スポーツ大会などの親睦活動

毎年、10月の体育の日の前後に各校区で校区民体育祭が開催されています。町内対抗や地区対抗による熱戦が繰り広げられており、スポーツを通して、世代間の交流が深められています。



自分のスキルを生かした活動

千丁校区まちづくり協議会では松の剪定や中国語講座、昔遊びなど、さまざまな知識や豊富な経験を生かし、地域に貢献する千丁人財バンクを行っています。



平成27年から千丁人財バンクに登録し、いきいきサロンや保育園でマジックを披露しています。「またきてほしい」「楽しかった」と言われるときが一番うれいんですね。

坂田 國昭 さん
スミ子 さん

コレ、実は 協働のまちづくり活動です

協働とは難しいものではなく、すでに各地域で協働のまちづくりの取り組みが行われています。ここでは、取り組みの一部を紹介しています。